

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 2 号 (4 月 27 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Yリーグ 黒星発進★

4月24日(土) 降雨と快晴が相半ばする中、U18Yリーグ1部第2節が上山明新館高校にて行われました(もう一つの会場は鶴岡東高校サッカー場)。第1節は降雪のため延期となっており、この2節が開幕戦。山東は鶴岡工業との対戦。昨年度のYリーグでは1勝1敗であり、今季はどうか、楽しみな一戦。

山形市内では雷も降ったとのうわさですが、上山市内では降雨のみ。クレーのピッチの質は最高なのだが、断続的に降る雨で、試合開始の12時頃はやや重めのピッチ状況。ただしボールはしっかり転がるので、何の問題もなし。第1節が流れ、待たされた分、選手は気合が入っている様子。春先の遠征などでは、試合の入り問題があったので(試合開始直後の調子が悪い、格好良く言えばスロースターター)、心配げに見ていると、決して悪くない。逆に好調を感じさせる。すると5分も経たないうちに良い形でボールが回り、右サイドをえぐった攻撃が得点につながる。「成長した!」と思わず叫ばずにはいられなかった攻撃で、先制。新入部員を含めた応援席は試合前から熱い応援を繰り広げていたが、早くもヒートアップ。

その後、鶴工に押し込まれる時間はあるものの、決定的チャンスを作らせず、逆にGKとの1対1のシーンを作り出すなど、押せ押せムード。顧問は試合前に唯一の指示としてここ最近の課題であったヘディングの対応にふれたのだが、競り合いの強い鶴工にヘディングを含めて決して引けを取っていない。特に左サイドバックで出場の小兵大久保は、負けなしだったのではないかと思えるくらいヘディングを決めている。2週間ほど継続的に練習してきたことが成果として現れるのを見て、目を細める。鶴工はやはり力のあるチームで前半の後半はしっかり押し込んできたが、押し上げている敵のDFラインの裏のスペースが広く感じられ、失点の危険とともにカウンターでの好機も予感させる。しかし好事魔多し!鶴工スロインにおいて抜け目なくマークを外した右サイドの選手にゴールラインぎりぎりからゴールに迫られ、同点ゴールを許す。時間はなんと前半44分!背後から動き出した選手に対する山東のマークが甘かったですし、それを修正させるコーチングも甘かったです。何とも悪い前半の終わり方。今になってみれば、好調と感じているほどは決定的チャンスの少ない前半であったと思います。攻撃もまだまだ甘いということ。

後半は突き離そうと攻めはしたが、FK(フリーキック)から直接決められ、また、山東CK(コーナーキック)からの逆襲において、またもや背後から動き出した選手に対する山東のマークが甘くサイドを抉られ、1-3の展開に(というか最初の段階でマークを外されているから「背後から走られた」というまとめになっているだけで、甘すぎです)。その後は、サイドバックやセンターバックも機を見て積極的に攻め上がり、手厚く攻撃を仕掛けたが、

敵のミスに助けられた1点を得るのみで、結局2-3の敗戦。県総体に向けて流れに乗ることが肝心であり、また、Yリーグでの好成績を残す意味でも重要であった初戦に敗れた山東。冬から春先のトレーニングによってペーススピード(判断のスピード)が上がり、ミドル3rd(ピッチを3分割した時の真ん中)でのプレーに向上が見られたものの、アタッキング3rd(敵ゴール前)とディフェンシブ3rd(味方ゴール前)でミスが多かったです。敵のミスを見逃さなかった鶴工の攻撃、地味なところでの的確に山東の攻撃を跳ね返していた鶴工の守備の方が一枚上手であったということ。敗北の悔しさを受け止め、第3節に臨みます。

新入部員歓迎会・県総体激励会 盛大に開催

4月25日(土)同日行われたYリーグの興奮冷めやらぬ中、ホテルキャッスル山形にて保護者会主催の新入部員歓迎会と県総体激励会が盛大に執り行われました。敗戦後の宴会ということでビールの味が一際苦く感じられましたが、OB会から5名(奥山副会長、秋保幹事長、後藤報道局長、岸事務局長、OB会期待の若手佐藤剛さん)の皆様のご臨席のもと、部員数より多くの保護者の皆様が参加され、そこは賑やかそのもの。選手も含めて全92名。

フィギアスケーター荒川静香さんの「勝ちたいという気持ちの先にある境地」についてふれた山川保護者会会長のお話一同納得し、奥山OB会副会長の「現役諸君の頑張りがわれわれOBに若さ・元気を与えてくれる」とのお言葉に、一同顔を綻ばせました。1年生から3年生までの選手全員のスピーチは頼もしく、ユーモアと意気込みを感じました。特に、2010年冬に入部した2年齋藤博愛(ヒロアキ)の「いつも暴力という形で可愛がってくれる3年千葉さんのために・・・」というくだりは、仲睦まじい(?)先輩と後輩の姿を連想させるとともに、入部4カ月ですでにサッカー部にしっかりと受け入れられていることがうかがえ、非常に好印象でした。そして締めはやはり千葉さんのエール。千葉さんのこれがないければ、宴に一区切りつきません(今回はお父さんのみの出席のため、秋の激励会において繰り出された秘儀「めおとエール」はお預けとなりました)。

その後、同ホテルで行われた2次会にはOBと顧問もお招きいただき、部の活動や県総体について尽きぬ会話を楽しみました。保護者の皆様、ありがとうございました。また新入部員諸君、辞めずにしっかりついて来なさい。